

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成21年は16万6千トンとなりました。

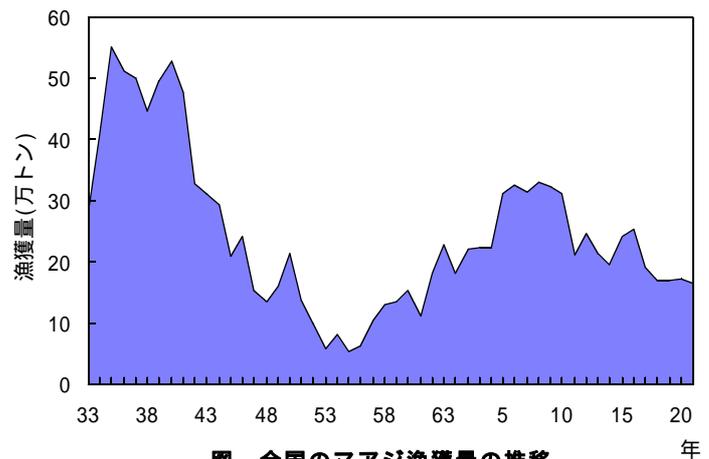


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成22年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島西，甌島東，川内沖に漁場が形成されました。

薩南海域では、立目崎沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、北薩海域を中心にマアジ豆・小（1歳魚：平成21年生まれ）主体に614トンの水揚げがあり、前年の199%及び平年の115%と好調に推移しました。

3. 平成22年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔（0歳魚：平成22年生まれ）でマアジ小（1歳魚：平成21年生まれ），マアジ小，中（2歳魚以上）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を下回って、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ0歳魚は、現在までの定置網への混獲等から前年をやや下回るものの平年は上回ると考えられます。マアジ1歳魚は、これまで好調な来遊があったことから、今期も前年・平年を上回ると考えられます。マアジ2歳魚以上は、現在までのまき網での漁獲状況から、前年並みと考えられます。

総合的に判断すると、前年を下回って・平年を上回ると考えられます。

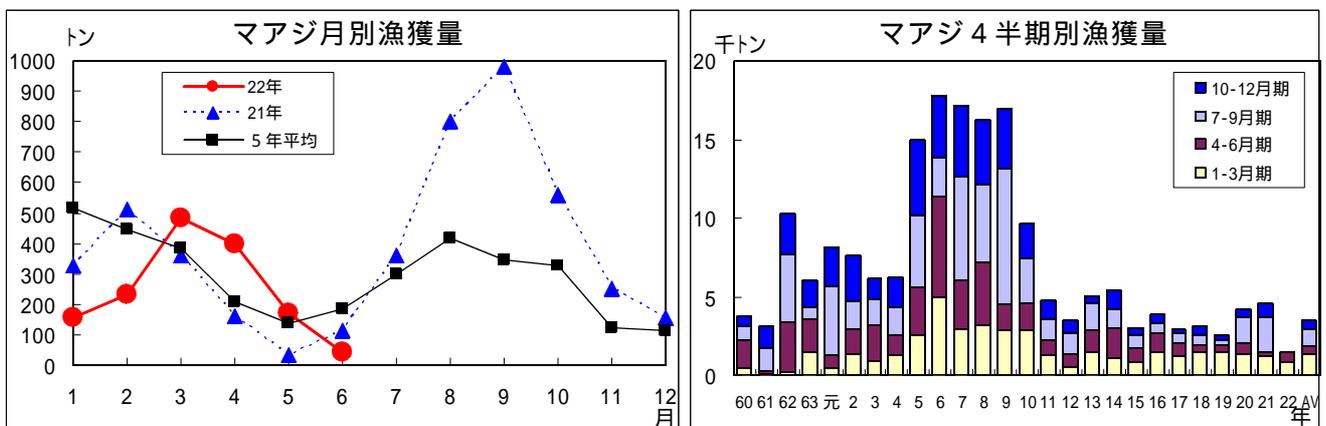


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン をピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした が、昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、その後減少し平成14年は27万9千トンになりました。平成17年から再び増加し平成21年は47万1千トンとなりました。

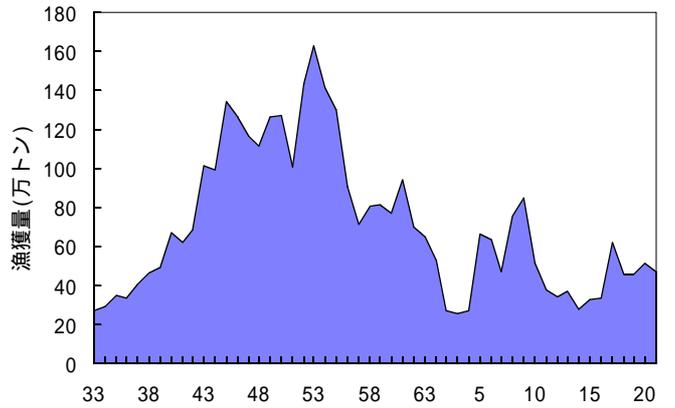


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成22年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甑島西，甑島東，川内沖に漁場が形成されました。

薩南海域では、宇治，馬毛島沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ中(3歳魚以上：平成19年生まれ以上)，ゴマサバ豆(0歳魚：平成22年生まれ)主体に3,743トンの水揚げで、前年の82%及び平年の73%と低調な漁模様となりました。

3. 平成22年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ小(1歳魚：平成21年生まれ)及びゴマサバ豆(0歳魚：平成22年生まれ)となるでしょう。

来遊量は前年，平年を上回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバ0歳魚は、既に漁獲の対象となっていることから、本県海域への来遊が良好で今後も漁獲の対象になると考えられます。ゴマサバ1歳魚は、太平洋系群の加入が良いと判断されていて隣県での漁獲も好調となっています。今期は本県海域へ来遊し漁獲の主体となり前年を大きく上回ると考えられます。ゴマサバ2歳魚は、太平洋系群の加入状況が悪く来遊が見込まれません。ゴマサバ3歳魚以上は、漁獲の主体とはならないが今後も散発的な漁獲が見込まれます。

総合的に判断して、前年，平年を上回ると考えられます。

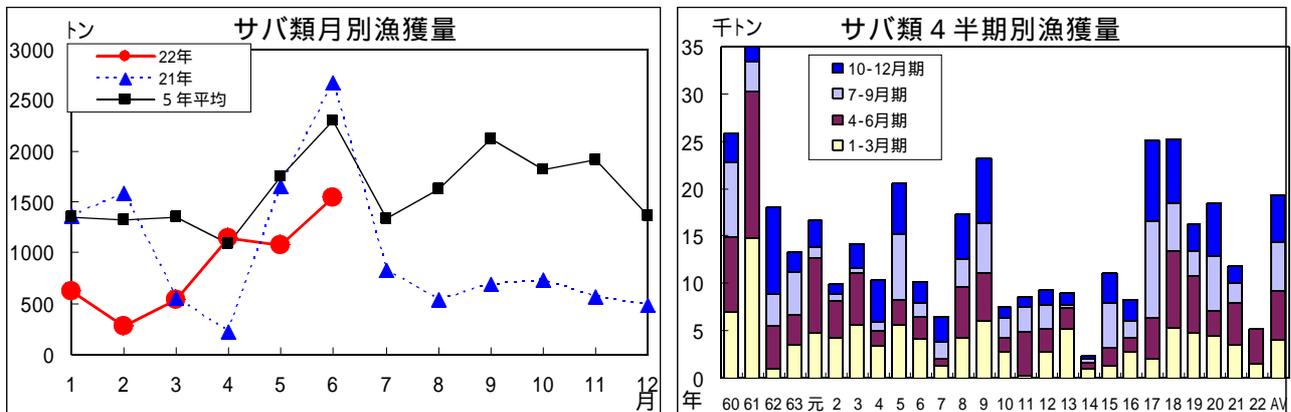


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成17～21年)の平均値(AV)、平成22年6月23日までの水揚量を使用。

[マルアジ (アオアジ)]

1. 漁獲量の動向

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しました。平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

2. 平成22年4～6月期の漁況の経過

串木野沖、野間池沖、甌島東が漁場となり、期全体で136トンの水揚げで、前年の489%及び平年の165%でした。

3. 平成22年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ小、中(2歳魚以上：平成20年生まれ以上)でしょう。

来遊量は前年を上回り、平年並みになるでしょう。

(根 拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

マルアジ小、中(2歳魚以上は)の来遊は、現在まで非常に低水準で経過した前年を上回っていることから、前年を上回って平年並みになると考えられます。

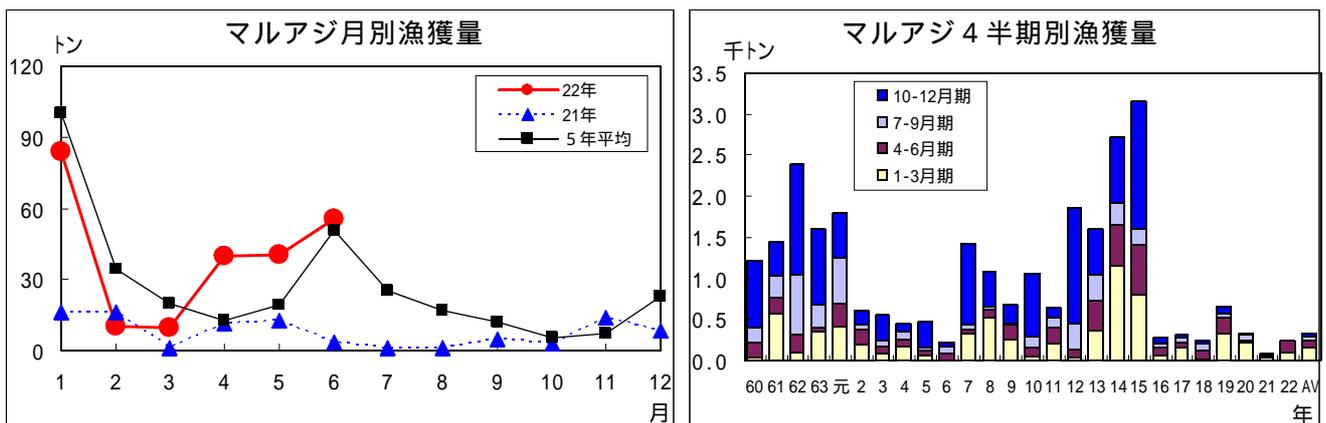


図 マルアジ (アオアジ) まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成17～21年)の平均値(AV)、平成22年6月23日までの水揚げ量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。

その後さらに減少し平成14年は5万トンとなり、以降横ばい傾向で平成21年は6万1千トンとなっています。

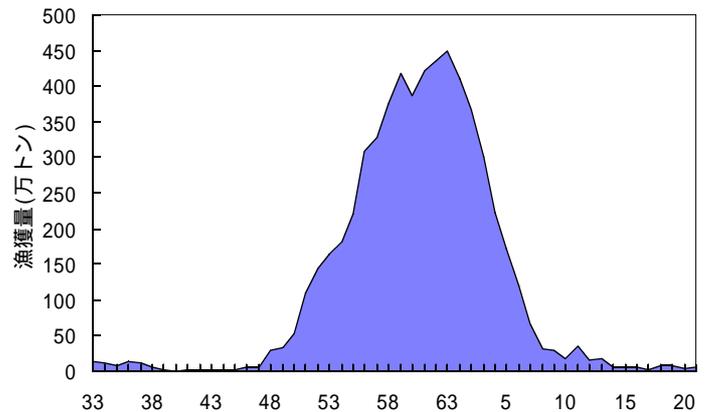


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 平成22年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域及び薩南海域のまき網では漁場が形成されませんでした。北薩海域の棒受網では、阿久根沖でウルメイワシ、カタクチイワシに混じって若干漁獲されました。

4港計のまき網では中羽（1歳魚：平成21年生まれ）主体に0.5トンの水揚げで前年の149%、平年の0.2%となりました。北薩海域の棒受網は、小羽（0歳魚：平成22年生まれ）主体に8.4トンの水揚げで前年は水揚げ無しで比較不可能、平年の162%となりました。

3. 平成22年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小，中羽（0歳魚：平成22年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を上回り，平年並みになるでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期棒受網で漁獲された0歳魚（平成22年生まれ）は，最近年では最も多く，また，長崎県海域でも0歳魚の漁獲が多くなっていることから，本年の九州西岸の0歳魚の加入状況は比較的良好であったと考えられるので，0歳魚主体に前年を上回る来遊量が期待される。

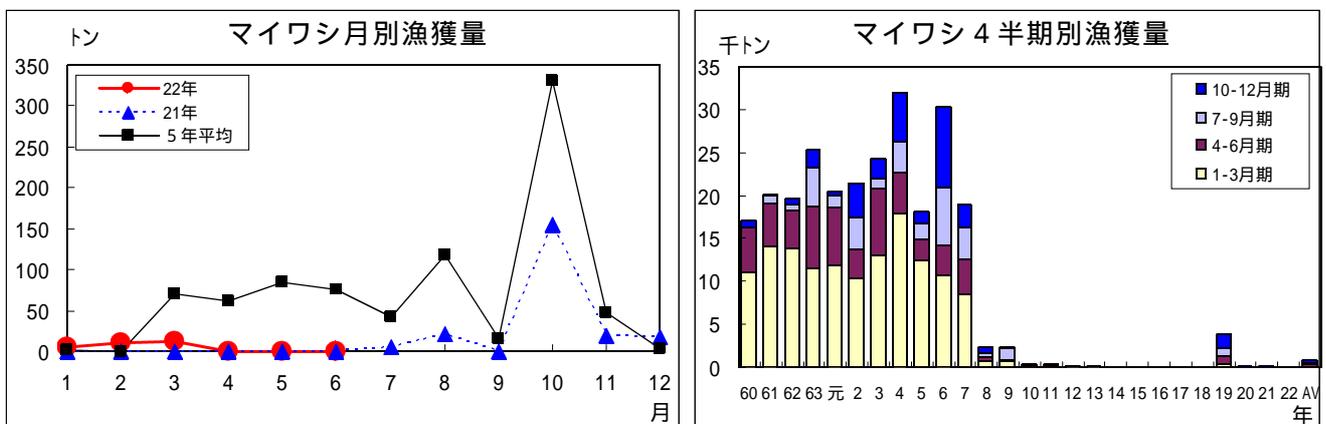


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりました。その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりましたが、近年は増加傾向となり、平成21年は5万3千トンでした。

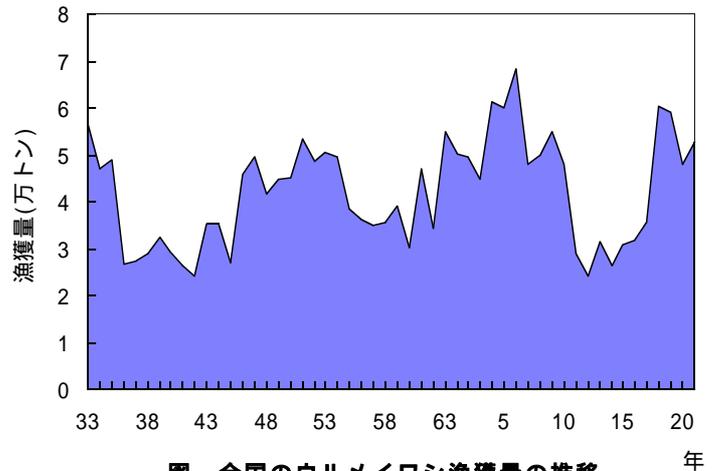


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成22年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島西，甌島東に漁場が形成されました。

薩南海域では、宇治に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中，大羽(1歳魚：平成21年生まれ)主体に780トンの水揚げがあり、前年の857%，平年の131%と好調な漁模様となりました。北薩海域の棒受網では、4月は中，大羽(1歳魚：平成21年生まれ)主体，6月は小羽(0歳魚：平成22年生まれ)主体に172トンの水揚げがあり前年の52%，平年の143%となりました。

3. 平成22年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、小，中羽(0歳魚・平成22年生まれ)になるでしょう。

来遊量は前年並みで、平年を上回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる小，中羽(0歳魚：平成22年生まれ)は、北薩海域の棒受網で平年を上回る漁獲状況にあることから良好な加入があったと考えられ、非常に好調であった前年並みで、平年を上回る来遊が期待されます。

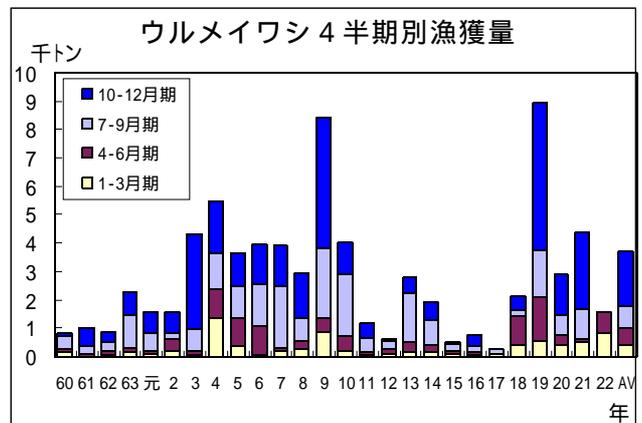
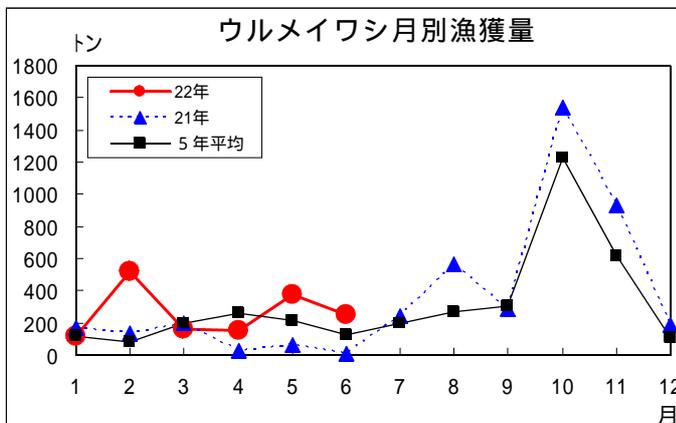


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成13年は30万トン、平成14年は44万トンでした。平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成21年は34万5千トンとなりました。

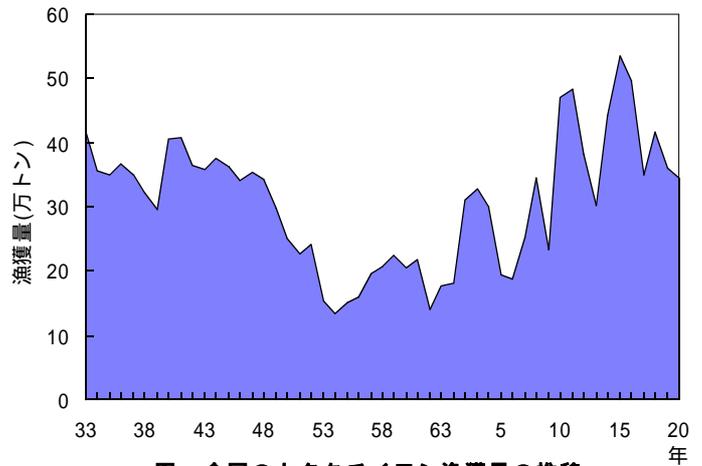


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成22年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

鹿児島県4港のまき網では541トン（前年比265％，平年比144％）と前年・平年を上回り、北薩海域の棒受網では263トン（前年比123％，平年比127％）と、前年・平年を上回りました。

3. 平成22年7～9月期の見とおし

期間の前半は中～大羽銘柄(1歳魚・平成21年生まれ)が漁獲の主体で、後半は小～中羽銘柄(0歳魚・平成22年生まれ)が漁獲の主体となり、前年は上回り平年並みとなるでしょう。

（根 拠）

前期の後半の漁況が良好なことから、7～9月期もある程度の来遊は期待されます。

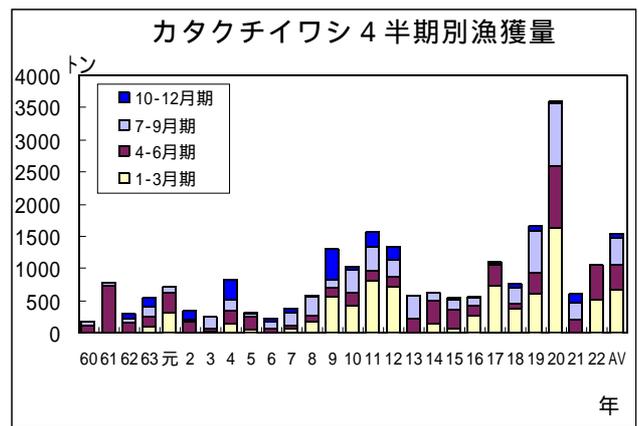
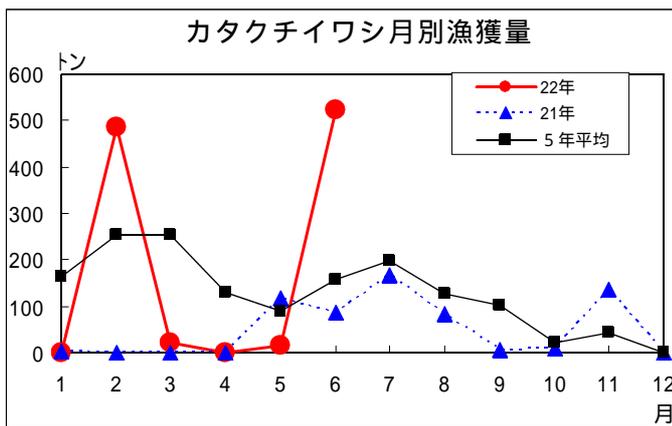


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。

[シラス]

1. 経年経過及び平成22年4～5月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成21年は1,771トンとなりました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しました。その後平成15年以降は増加傾向を示し、平成19年は2,374トンと好調に推移しましたが、平成21年は871トンまで減少しました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体に1,712トンの水揚げで、前年の343%、平年の156%と不漁であった前年を大きく上回り、平年も上回りました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に544トンの水揚げで、前年の157%、平年の115%と前年・平年を上回りました。

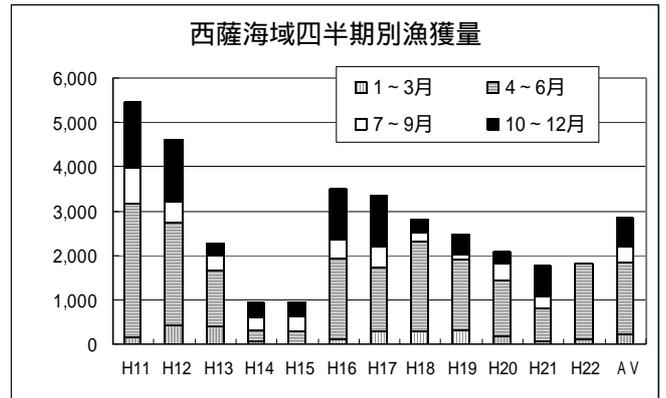
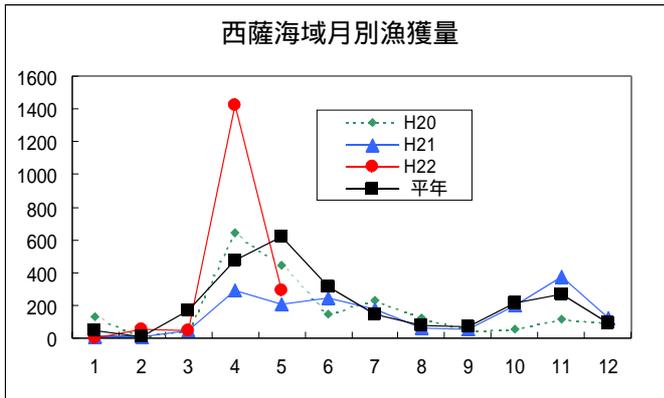


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年(平成17～21年)の平均値(AV)、平成22年5月末までの水揚げ量を使用。

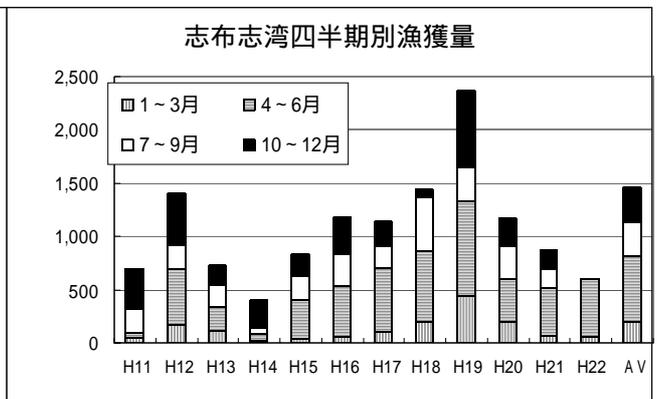
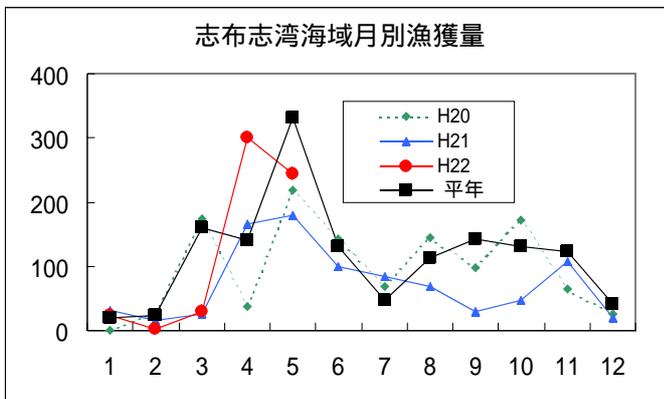


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成17～21年)の平均値(AV)、平成22年5月末までの水揚げ量を使用。

[イワシ類参考資料]

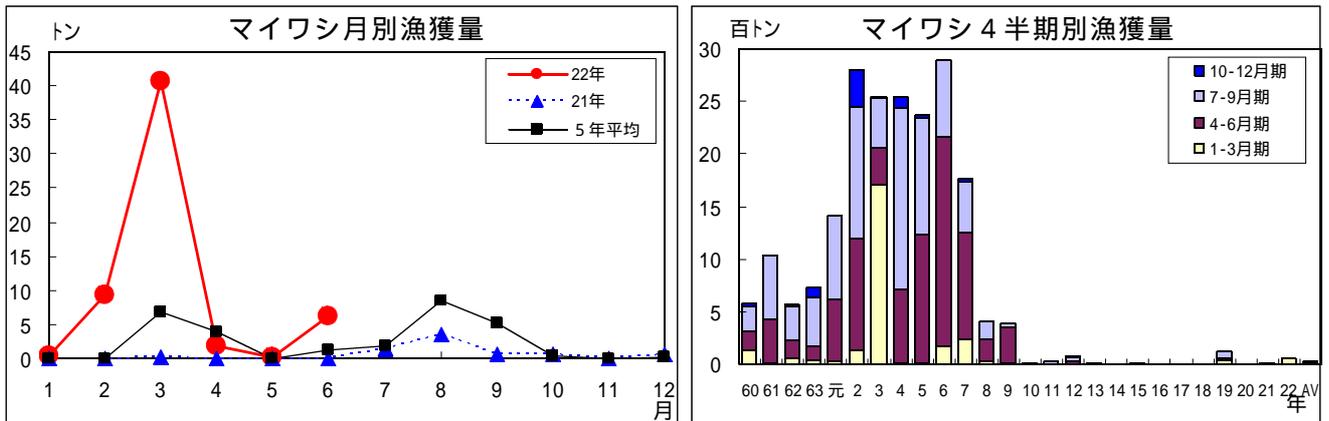


図 マイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

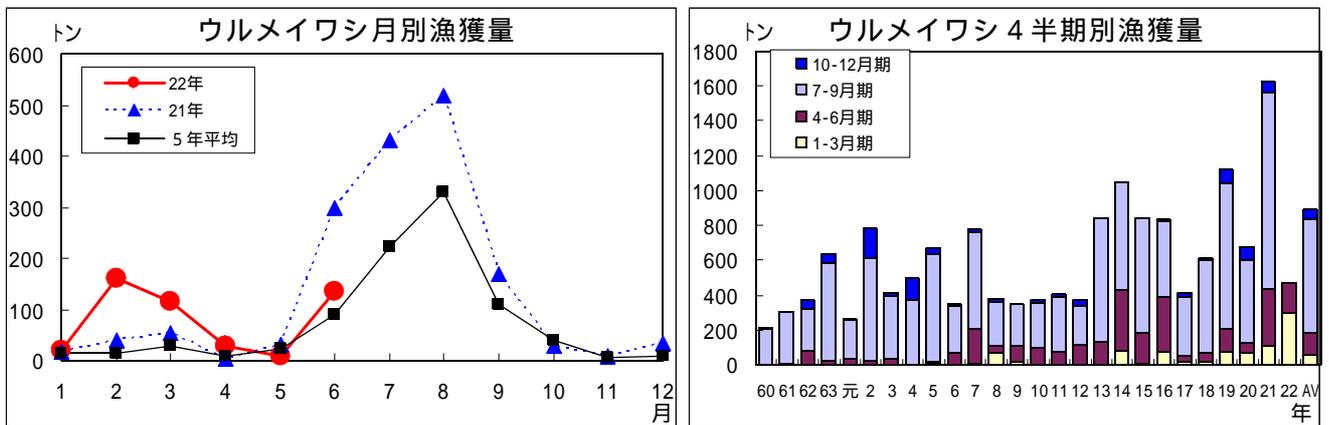


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

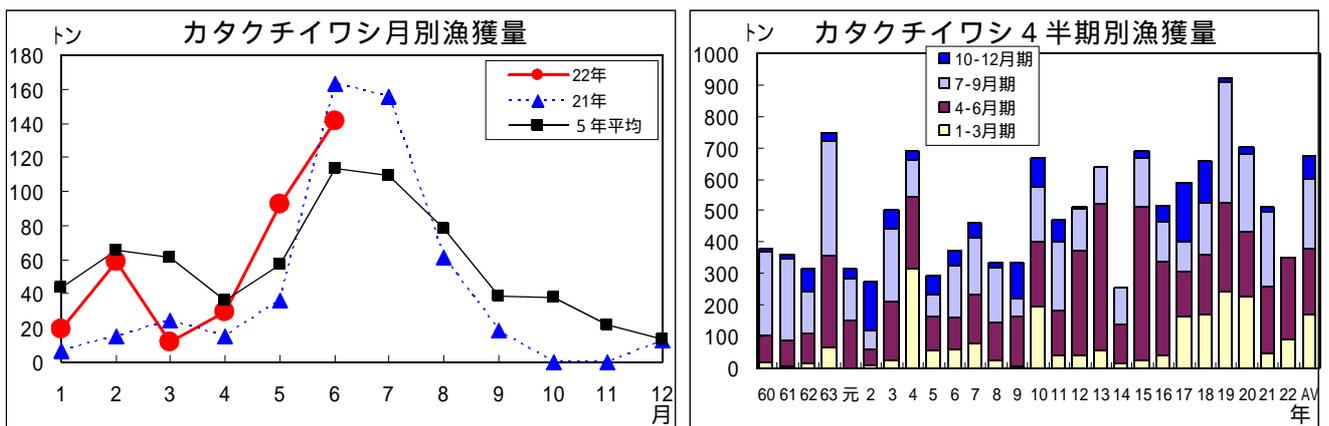


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。

[参考：漁況経過のみ記載]

ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（4港計）

1. 経年変化及び平成22年4～6月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は，平成2年の21,700トン进行ピークに急減し，平成6年以降は，1,500トンから4,500トンの間での推移となっています。平成21年は2,803トンとなりここ4年間横ばいとなりました。

平成22年4～6月は，薩南海域ではまとまった漁獲はなく，期全体で31トンの水揚げで，前年の13%及び平年の25%となりました。

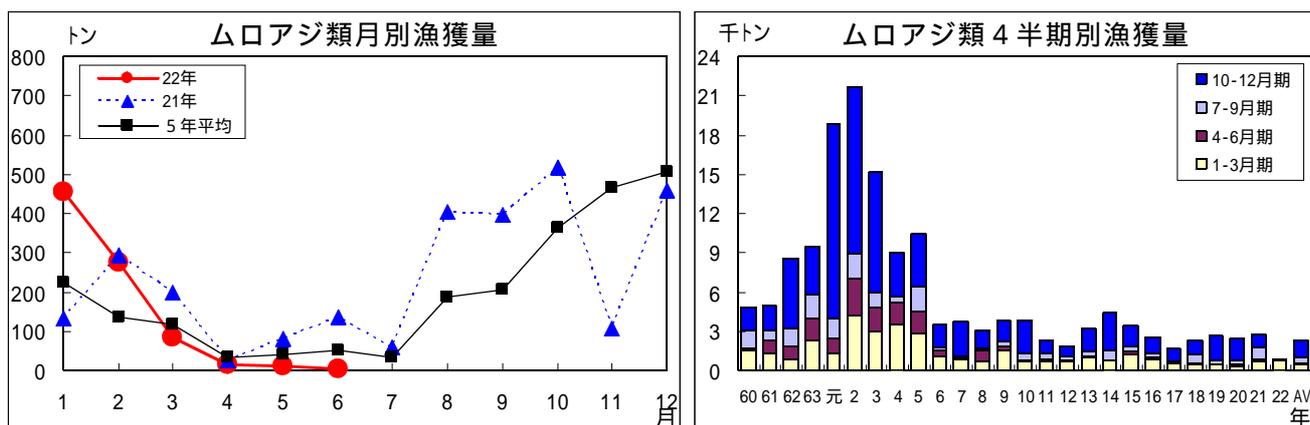


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。

オアカムロ（4港計）

1. 経年変化及び平成22年4～6月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は，平成元年の5,300トン进行ピークに一端減少し，平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと前年・平年を上回り，平成21年も前年は下回りましたが，平年並みの1,470トンとなりました。

平成22年4～6月は，薩南海域で漁獲があり，期全体では223トンの水揚げで前年の63%及び平年の137%となりました。

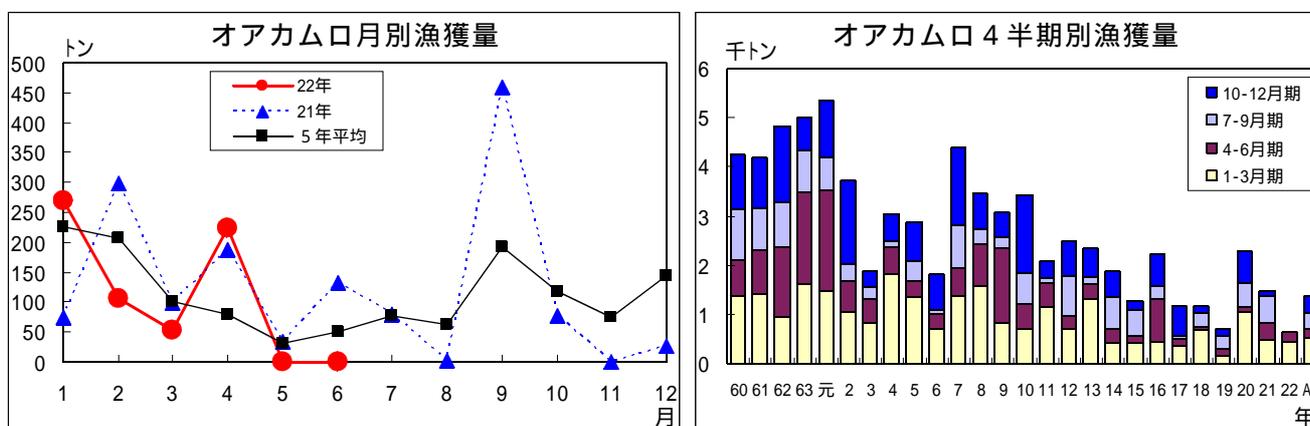


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成17～21年）の平均値(AV)，平成22年6月23日までの水揚量を使用。